

令和３年度使用西多摩地区町村立中学校教科用図書 選定教科書とその理由

西多摩地区町村立中学校教科用図書採択協議会

	音 楽：一 般（教育芸術社）	音 楽：器楽合奏（教育芸術社）
内 容	①歌唱共通教材は、全てを扱っている。（第１学年：「浜辺の歌」「赤とんぼ」、第２学年：「夏の思い出」「荒城の月」、第３学年：「花」「花の街」「早春賦」） ②外国の歌唱教材として、第１学年では「エーデルワイス」、第２学年では「サンタ・ルチア」、第３学年では「帰れソレントへ」を原語でも扱っている。 ③全学年で、「世界の民族音楽」と「日本の郷土の芸能」を扱っており、写真や図などを使用した鑑賞教材の内容が配置されている。 ④ポピュラー音楽について、ジャンルを細分化して取り扱うとともに、日本独自のポピュラー音楽も扱っている。 ⑤創作領域について、各学年２単元（題材）の学習内容（活動）からなっている。 ⑥「生活と音楽」という内容を全学年で扱っている。 ⑦コンピュータと音楽について扱っていない。 ⑧著作権について、第３学年で扱っている。 ⑨変声期や発声法について、第１学年・第２学年で扱っている。	①洋楽器（リコーダー、ギター）及び和楽器（箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八）に加え、打楽器を扱っている。 ②リコーダーの章で、楽器の手入れ方法について扱っている。また、アルト、ソプラノ両方の楽譜が掲載されている。 ③ギターの章で、タブ譜を扱っていない。また、扱うコードは、「G、D、Em、C」となっている。（Key:C） ④箏の章で、箏と琴の違いについて記述がある。また、扱っている奏法は、かき爪、割り爪、押し手、押し放、引き色、合わせ爪となっている。 ⑤三味線の章で、糸と駒のつけ方の解説がない。また、奏法は基本奏法のみとなっている。 ⑥和太鼓の章で、奏法については基本の構えと打ち方のみとなっている。 ⑦楽器に対する理解を深める内容として、各楽器の演奏スタイルや種類を紹介する内容を楽器ごとに扱っている。また、各楽器の演奏家の言葉を紹介している。
構成・分量	①各学年 99 ページで構成されている。 ②全体構成は、領域ごとにまとまっている（歌唱 8～10 単元、創作 2 単元、鑑賞 6 単元）。 ③鑑賞曲「魔王」が楽譜中心の表記となっている。 ④第１学年の創作で、コードネームを利用して旋律をつくるようになっている。第２学年の創作は、リズムの学習が含まれている。 ⑤鑑賞において、鍵盤楽器を学習する教材はある。	①全学年 107 ページで構成されている。 ②洋楽器（リコーダー、ギター）、和楽器（箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八）、打楽器で構成されている。 ③楽器の学習の中にアンサンブルの楽譜が含まれている。 ④箏の発展的な学習曲が縦譜のみである。 ⑤27 曲を取り扱っている。 ⑥歌唱や鑑賞の学習とつながりのある曲の記載が少なく、J-POP などの有名曲の楽譜が記載されている。
表記・表現	①三つの柱について、全教材に渡って表記がある。 ②教材ごとに学習目標と学習活動が表記されており、生徒自身で確認できる「何を学ぶか」や、学習目標に迫るための「具体的な学習活動」の表記がある。 ③写真やイラストなどの資料が使われている。 ④鑑賞曲の楽譜が主な部分のみで、まとまりとしての掲載がない。 ⑤「小フーガ」の掲載があり、合唱の学習にも関連付けられるようになっている。 ⑥唱歌の表記があるが、やや小さい。	①三つの柱については、全教材に渡って表記がある。 ②各楽器の最初のページに参考曲の紹介がある。 ③篠笛・尺八・箏・三味線・太鼓・ギターの写真が掲載されているが、拡大写真は少ない。 ④巻末の写真で多くの種類の楽器が紹介されている。
使用上の便宜	①単元ごとに自分の意見をまとめたり、話し合ったりする項目がある。 ②1 年間の学びを、音楽を形作る要素ごとに整理して振り返るページがある。 ③日本の伝統音楽に関わる言葉をまとめて整理しているページがある。 ④学習に関わるホームページにリンクする QR コードを掲載している。 ⑤指揮を学習するページが全ての学年にある。	①ウェブサイトを開設しており、教科書の内容にリンクした動画、音声、ワークシートを利用できるようになっている。 ②目次の他に、学習内容やめあてを領域ごとに整理したページがある。 ③巻末にリコーダーとギターの運指表がある。 ④箏の楽譜が載っているので、五線譜と比較ができるようになっている。 ⑤それぞれの楽器の奏法について、写真やイラストで説明されている。 ⑥主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、協働的な学習の場面が設けられている。